京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

[illegible]一ヶ月金三十錢 [illegible]十七字詰一行一回金五[illegible]金七十五錢
[illegible]高木久[illegible]郎
[illegible]松久錦一郎
京城新報社
仁川支局
東京支局

時間表 [illegible]

革命軍中の女傑

▽墨國のジャン、ダーク

墨西哥の革命軍中に一隊の女子軍ありて兵器糧餉の運搬は固より時として陣頭に立ちて勇ましく戰鬪する由は曾て米國電報の報じたる處なるが近着の紐育新聞を見るに墨國ソノラ州なる叛軍中に一個の女傑あり常に一隊の兵を率ゐて共和軍（官軍）を驅け惱ますこと大方ならず其の向ふ所刃を迎へて解くるの有樣なれば人みな彼女を呼ぶに墨國のジョアン、ダークを以てして其の勇氣に感服せざるはなしとぞ扨此の女豪傑は曾て其の二兒と共に革命軍の爲に非命の最後を遂げたるダラメート氏の未亡人にして年早や四十五歲と聞ゆれども天の成せる麗質自から清く美はしく人を魅せん許りなり且つ家富みて地方に於ける勢力も却々に盛んなるが夫なるタラメート氏は革命軍の起りし當時其の二兒と共に革命軍に投せんとして發覺し共和軍の司令官チアバス大佐の爲め逮捕されて軍法會議に附せられ一應罪狀の審問を受けたる後父子三人押並べて同時に銃殺に處せられしぞ無慘なれタラメト夫人は此の怨骨髓に徹し如何にもして其夫と二子の爲に仇を復せんとて豫て其の所有地に使用せ敷百の勞働者に武裝せしめ自から一軍に將として雄々しくも官軍の劍哨に攻擊を加へ一壘又一壘引續き數個所の壘を陷れ遂にソノラ州なる官軍をして一敗地に塗らしめ[illegible]當の敵なるチアバス大佐を[illegible]佐が如くに彼女は[illegible]自ら大佐を銃殺して怨を報せんと企て居れ[illegible]勢力は今や全州に及び其の名聲[illegible]も[illegible]非ざるべしとは一般の[illegible]なりといふ

●肺結核の豫防（八）

贊化病院 河野作藏

△肺結核の早期病狀

肺結核の初期は如何なる症狀を呈するものであるかと云ふことを知て置くことは患者の利害のみならず豫防上も大なる要件である何となれば病氣に罹りかゝて居るも知らず識らず機を失し症は遠慮なく進て來て病毒を散亂し他人に傳染せしめ漸く氣が付いた頃は已に遲くへとも其効なく空しく仙境の使者を待つことになるである初期結核は其進行頗る迅速なるもの多きと共に亦早期療養に由りて治療の驚く可く迅速にして期待以上の成績を得ること多きを以て須く早期の療養をなすことである其初期に自覺する症狀は到て緩慢なるもので食事が減するとか頭痛がするとか記臆力が減するとか動悸がするとか全身倦怠を覺ゆるとか羸瘦するとかである病進んで來れば輕度の發熱とか盜汗とか胸痛とか精神の沈鬱となり是れまで好める遊戯とか仕事とかにも嫌むことになるのである總て斯かる症狀が一時に來るものではない其二三の症狀しか現れない其尤も多いのは食事が減し全身が何となく倦怠を覺へ氣分が勝れず仕事をする勇氣がなく胃病の如き容体を以て來るもので殊に婦人は夏季に於て暑さにあてられて食事が減じたと云ふものが一般に多い此の夏季に於て夏瘦する婦人を精密に診するに初期肺結核が非常に多く且つ此れ等は夏季に於て症狀が甚だ增惡するものである男子は此夏瘦せなるものが少いが壯年の者で慢性の胃病で肥滿しないと云ふものは肺結核が多い樣である次ぎは頭痛するとか記臆力が減したとか云ふ樣な神經衰弱症の容体を以て來るもので此れ等の場合は餘程注意すべきことで此機を失しては後悔の臍を咬むども及ばないのである此早期に於て醫師の診斷を下すことは頗る難事である何となれば肺結核なる語は患者を恐怖せしめ家族を憂愁に陷らしめ醫家をして不利の地に陷らしむること尠からず即患者は醫の言に信を置ず等閑に附し又は恐怖の餘り度を失し東走西奔に機を失し病症を增惡せしむることが多いのである其際慎重の態度を取り輕卒に出でざることは緊要である又肺結核の豫後に影響を及すものは如何と云ふに肺結核の豫命は財嚢の重さに比例すとの俚諺は非常識に眞理を語れり是れ生活狀態の不合理を免れ得ざる爲めである其他患者の性僻は著しき影響を及すものである即合理的生活を知らざるもの懶惰なるもの輕卒なるもの自暴なるもの勇氣なきもの憂慮し甚しく沈鬱なるものは勇氣旺盛なるものより一般に經過迅速なるものである彼の肺結核の初期なりと診斷せられ自己の希望と業務を抛ち乾燥無味なる病的生活に沈み幽悶し病勢を增進せしむるは平常目擊することであるこれは肺結核其物の害よりも遙に大なるものである故に豫後を佳良ならしめんとせば早期に當りて合理的の療養をなし勇氣を鼓舞することである肺結核は其末期に及ひて初めて行ふと均しき謹愼を以て早期より治療すべしとはフォルコーが吾人に敎へたる金言である又彼の獨乙國「シレージエン」の一寒村「ゲルベルスドルフ」より肺結核は治療すべしと報したルプレーメルの聲明によるも又解剖臺上の死体も吾人に對し結核は治癒の可能なることを證明し居るが曾是れ其早期に治療すべきことである

●京畿道の麥作　高陽地方の麥作の狀況は既報したるが始興安山兩郡の作柄も豐作の由にて平年に比し二割昨年に比し三割以上の增收の見込なりと云ふ

●客月中の獸疫數　客月中各道に於ける牛の獸疫に罹り斃死數は七十五頭なりと

●各將校の碧蹄館遠乘　軍司令部及二師團の各將校連は來る十一日頃を期し碧蹄館の遠乘を試みんと云ふ

●世界第一の皓齒　齒牙の性質良好にして且其色澤の雪白なるはソマリランド人を以て第一とし世界中他に之を匹儔すべきものを求む可らずソマリーランド人は隋眠を貪ぼる時も仕事をする時も常に齒牙を氣にし柔軟なる小枝の一端を碎きて刷毛の如く柔かくし一生懸命に齒牙を擦するなりこは勿論齒牙の腐朽を防ぎて强壯ならしめんが爲めならんがソマリ人が路傍に齒楊枝に用ゆる小枝を手折て珍重するは恰も娘子供が田圃に摘みたる野花を愛づるが如し彼等は片時も件の齒刷子を放さゞれば齒刷子齒磨粉は元より不必要なり要するに彼等の方法は齒牙健康の

◎新刊紹介

▲社會政策（第一年六月號）本誌は彼の『戶水』博士の『帝國の外交策』の二大長篇の論文あり新世家は必らず一讀すべき和田三郎氏の『自由主義の社會的發展』原戍吉氏の『近代政治の傾向』桑田法學博士の『消極的社會政策とは何か』等又政治家の參考に資すべく此外社會政策研究上有益なる記事を載せ編輯も整ひ体裁も野卑ならず吾人は益々其隆盛なる發達を望む（一冊十五錢東京市芝公園五號地社會政策社）

▲實業之日本（第十四卷十二號）實業雜誌中の白眉を以て目せらるゝ程あつて全篇皆有益の文字ならざるはなく誌中幾多の寫眞畫は文字の足らざるを補ひ編輯体裁共に異に完備せるものといふべし（一冊十一錢東京市京橋區南紺屋町實業之日本社）

▲ニコ〳〵（六月號）年中ニコ〳〵として和樂團欒かも不自由を見ずに此世を送らんとするもの本誌を讀みて大に修養すべし修養亦難からず只惡い事をせずにニコ〳〵するにありとは本誌が每號吾人に敎ゆる所也（東京新橋ニコ〳〵俱樂部一部五錢）

▲新世界（第十三號）一冊僅かに三錢五厘の雜誌なれども善化主義の鼓吹と銘打たるだけあり載せる記事は訓養に資す又面白い讀物もあり（東京市京橋區築地新世界社）

文苑

●誠　もの字

こゝろだに誠の道にかなひなば祈らずとても神や守らん

嗚呼何たる名句ぞ、流石は神と敬はれつる菅公の詠吟なり、人に上下貴賤の別、賢愚痴の別ありてこそ浮世なれ、此區別なかりせば、社會の構成甚だ覺束なかるべし、されど賢者誇るに足らず、愚者恥づるに及はず、各々共に社會有用の分子たればなり、世に往々奇才を弄して賢者を粧ひ却て其行動誠實を缺くもの多し、而も我人怪まざるは甚だ奇に似たりと雖も、斯くては祈るとも神や守らざるべし、又魯鈍[illegible]きに似たりと雖も、其行や常に誠實の道に叶ふものあり、此等は世に疎んぜらるゝとも、いつかは神の助けに遇はですむべき、登勉むべきは誠の道ならずや

召使れ初　第七十一回　墨法師

忿怒を含む佐十郎の目は爛として、手に持てる刃の鋭さと光りを爭ひぬ、お察の手を支いて慇懃に詫びる詞を耳にもかけず

「いやならぬ、什麼樣申しても赦すことならぬ、そなたも腕に覺あればこそ、我等に對し手出し致したに相違ない、此まゝに許しては末代武士の名折れとなる、さあ來、これへ來」

されどお察は猶は頭だも擡ず詫び入りて

「でもござりませう、なれど其處御勘辨あらせられて、幾重にも御免しあらせまするやう、只管お願ひ申し上げるでござります」

「ならぬ、ならぬ、如何樣に申してもならぬ」

と佐十郎はお察が詞を低く詫び入るだけ、それだけ強く云ひ掛りて「そなたも武士の娘でないか、今より濱田公御殿へ奉公する身分でないか、相手に詞を掛けられて、後へ退くは卑怯ぢや、ずんと出」

「アれよ、佐十郎よ」とお力は側に氣を揉みて、何を貴めらに云ひ張るぞなか〳〵理不盡なことを申せばこそ、お察の堪らかねて……」

「聞きませぬ、いかやう仰せられても聞きませぬ」と佐十郎は耳を塞ぐやうに、私には私の存念でござります、私にも武士の魂でござります、打ち捨てゝ置かせませ」

「さりとてお察どのは女儀、そなた大人げもなく相手にして……」

「時には牛の刀に由つて鷄を割くこともござります、武士の面皮を穢されたに男女の差別ある筈でござりませぬ、あなたはそれに御覽せられ、只今これにて……」と拔き放ちたる一刀をりう〳〵と振りながら「立派に耻辱を雪いでござります」

「若旦那樣」と次には德兵衛が聲を掛け「そりやなりませぬ」他人が見物いたすではござりませぬ、それにあるは御新造樣、私、その他には猫の兒一つも居りませぬ、お察どの腹立てなされたる御立腹もでござりませうが、何を申すも女儀、殊には……」

「いふな〳〵、聞く耳持たぬ」と佐十郎は烈火の如く「お察出、これへ出、此期に臨んで四の五の申さず、力づくで引き下す」



佐十郎は思ひ掛けぬ今の不覺に、氣も心も顚倒せりき、此まゝにお察の不禮を見兒すとあつては、後々出世の妨げにもなるべく感じたりき、前には當家の伜德右衞門の爲めに、繩を掛けられたる深き耻辱すら、止むを得ぬなりと諦めて、觀念の目を閉ぢたるものがお察の今の手出しに對しては終世拭ふべからざる耻辱として、一歩も退く處なく、母の詞をも用ひず、德兵衛の意見にも從はず、宛ら狂氣の如く猛り云ふなりき、お察も今は此までと觀念彼女の手には覺ねあれど彼女の目には佐十郎の振閃かす刀の光りなど、少しも映じ居らざりき、お力の方を振向て

「奥方、お兒しを蒙ります、佐十郎樣斯程に仰せ、お詞は從はずは御勘辨もあるまじう見れますれば、此まゝ致し置いては、當家へも迷惑、とても御對手致すべき身分ではござりませぬが、今は據ござりませぬ、佐十郎樣お刀の錆となるとも、毫厭ふ處ござりませぬきされ相手致す心でござります」

「ぬゝ」とお力よりは德兵衛が吃驚して「此方がの、此方彼の白刃の下へ立ち向ふ覺悟ぢや喃」

제698호　1911. 6. 8.

京城新報

中流社會發生の必要

朝鮮今年に亘りて米價の騰貴は、細民の飢餓に瀕せる者多く、當局者は之れが救濟方法に付て苦慮しつゝありと。朝鮮に於ける細民の窮迫を告げしは今に始まるに非ず、年々歳々這般の現象を目睹せざるはなし。是れ畢竟朝鮮人の社會組織に一大缺陷あるに因るものにして、此缺陷を補綴するにあらずんば折角の救濟も唯一時の急に應ずるに止まり、再び斯る患害を醸生せざるなきを期するは、蓋し至難の業たらずんばあらず。

朝鮮の社會組織は不幸にして上流と下流あつて其中流なし。上流（即ち兩班と稱せらるゝ者）にあつては不生產的にして下流は奴隸的なり。不生產的なるものは妄りに驕り毎に下流を壓し、奴隸的なるものは妄りに萎縮し終に懶惰放逸に流れ治產を念とせず。而かも此上下の中に立ちて能く之を調和すべきものあるを見ず、爲に社會は分斷せられて其中間は全く空虛となれり。如此にして中流を有せざる社會が極端の弊に陷り細民益々塗炭の苦を叫ぶは當然必到の數のみ。是れ朝鮮の社會組織上大なる病弊なりとす。此病弊に向つて根治療法を試みる亦爲政者の最大要務たらずとせむや。

夫れ、國家の繁榮隆昌は、國民經濟の發展に俟たざるべからず、而して國民經濟の發展は、個人性の完全圓滿なる發達に待たざる可からず、更に此個人性を完全圓滿に發達せしめんと欲せば、社會組織の偏頗ならざるを要す。之を我本國に見るも、社會組織の整然として上流下流二階級の間に中流者の極めて多く介在せるあり、宗教にまれ教育にまれ產業にまれ、凡て社會百般の事是等中流者に重きを置き、中流者は殆んど國家の中堅たるの觀あり、尚史的方面より如何に中流者の社會に必要缺くべからざるかを觀察すれば、往昔群雄割據互に覇を爭ひし我國の時代に顧みて、所謂上流の位置にある者は多く干戈を事とし、下流の民は概ね之れが夫役に徵せられ、彼等兩者は爲に產業は素より其他社會百般の施設をなすの遑だになかりしも、此以外中流の一社會存在せしを以て、農工商を始め社會須要の事業斷絕を見るに至らず、彼有名な應仁の戰亂中其兵燹に罹りて烏有に歸したる京都市街が中流者の努力によつて舊態に復せしが如きも亦顯著なる一事例にして、眞に中流社會が古今を通して國家に負ふ所多きは何人も否定する能はざる所也特に、我國租稅の負擔力の此社會を以て主となすは統計に依て明白なるを以て吾人茲に架說せず、如此我中流社會は國家を登しつゝあるも朝鮮は然らず全く反比例の有樣を示しをるは即ち半島統治に大なる妨礙を與ふるものなるを想はざるべからず、否寧ろ之を改善せずんば半島の發達得て計るべからざるなり、而して其改善の方法や如何、これ一朝一夕に成し遂げ得べきにあらず、先づ半島民族の個性觀念の啓發に努め、近世社會組織に適應すべき教育を施して中流社會の發生を促がし、次に半島民族をして知らず識らずの間、其社會組織の不完全なるを自覺せしむる爲め、我社會組織の現狀を目擊せしめ且數千年來因襲せられし我美風良習を示し刺激を與ふるは、半島の社會改善の方法として最も捷徑なりとす、故に內地人の半島に根住し模範中流社會を造らんことを極力獎勵せざるべからず、而かも此方法は當局者にとりて甚だ容易なることなりと信ず、當局者にして之を行ふて始めて半島民族は活き且つ飢泣くの細民も其跡を總つに至るべし、吾人は茲に重ねて言はんと欲す、半島の隆昌は生產力の增加に俟たざるべからず、生產力の增加は現今の社會組織上の大缺陷を補綴するにありと。

東京電報（七日發）

▲明年度新事業　明年度に於ける新事業として目下各省の計畫しつゝあるは第三期電話擴張、地方港灣修築、日本大博覽會及議院建築等なるが此等の新事業に對する明年度の財源は未だ見込立たず二十六議會より施行の所得稅法改正案實施の如き頗る困難なるべし

▲犯人引渡條約調印　日露兩國間に於ける犯罪人引渡條約は本月一日調印せられたるが七月下旬を以て批准交換する筈なり

▲政務總監の鹽原行　東上中なる山縣政務總監は小閑を得て昨六日栃木縣鹽原に赴き本月中旬まで同地に滯在する由なり

▲遣英艦の消息　島村司令官の率ゆる遣英艦隊は昨六日ジブラルターを拔錨ポートランドに向へり

▲米艦の北海巡航　米國亞細亞艦隊サラトガ號外三隻は昨六日橫須賀出發北海方面巡視の途に上れり

▲總裁宮御禮參內　閑院總裁宮殿下には昨日參內皇后陛下に御製額赤十字社總會に臨御の御禮を述べさせられたり

雜報

▲軍隊農事講習　東京高等農學校にては軍隊に農業上の講習を爲さしむるの必要ありとて兼て講習會開催案を立て其筋に交涉中なりしに第一師團にては之に贊成し愈々去る四日同校に於て講習會發會式を擧げ引續き講習を開始せり

▲海南丸船長の消息　南極探檢隊の野村海南丸船長は本月五日日光丸にて香港に着したり

●外人の會社設立　會社令に依り出願せん　米國人モーレス氏は豫ねて平安北道順川方面に金鑛採掘の權利を獲得し現に經營中なるが今回之を株式會社組織に改め其資本を五十萬圓として大々的發展を策せんと計劃し既に其準備成りたれば近々會社令の手續を踏み總督府に出願する筈なり會社令發布後外人の企劃に係るものは之が嚆矢なる由

●水力電氣の調査　總督府遞信局にては本年より朝鮮に於ける水力電氣に關し調査する筈にて其經費も本年度に於て三萬圓を投ずる事となり居れるが調査の範圍は主として水力電氣に利用され得べき河川及其流域に適當なる都邑を有し動力の供給を必要とする場所を第一とする筈にて目下專任技師の詮衡中なるが多分遠からず來任を見るべく到着の上は直ちに調査を開始すべしと云ふ

●官營後の水道

佐治水道事務囑託談

官營移屬後の京城水道に關し水道事務囑託佐治法學士の談左の如し

▲給水請求激增　引繼當時に於ける給水總戶數は千九百六十三戶にして外に請求中のもの十二戶を算せり然るに官營移屬後著しく其數を增し現に四月中に百二戶五月中に百五十戶の新給水を開始し尙は倍々增加の趨勢に在り思ふに斯く激增を促がせる所以のものは左の事由に歸着すべし

一、會社時代の專用給水料は最低一圓五十錢なりしが官營後一圓に遞減せし事

二、計量に依る水料は官營後一立方米に就き約二割方低廉となれる事

三、二戶以上の共同給水料は專用と同じく每戶最低一圓五十錢なりしに新規則は僅かに六十錢となれる事

四、給水工費は會社時代には材料の原價及工費に多大の割增を加算せしも官營後は純然たる實費を以て計算し居るのみならず一時に巨多の購入を行ひ且つ免稅品たる爲め其價格に廉なる事

▲料金低減步合　而して現行規則に依り其料金を調定するに當り水料に比し低落せしもの實に九十パーセントにして昂騰せしものは僅に十パーセントに過ぎず以上の昂騰は則ち會社當時に在ては歐米人には特別の割引を爲し居りしも官營後は一律に新規則を適用し又家屋賃貸借價格の如きも主觀的に評定し居りしが其後公平なる調査を行ひたる結果之を改定せしもの頗る多く且會社の水料算定後家屋を增築せしも其申告を怠り爲めに增徵を免かれ居りしもの多々發見せし等主なる原因たる斯かる事情の下に料金を加重せし所以なれば素より何等の不備あるべき筈なく一般市民は寧ろ其利益の大なるを喜びつゝあるが如し

▲誰か營利と言ふ　現在の經營を以て其損益を推算するに之を會社時代に比すれば多大の減收を來せる事言ふまでもなし蓋し給水戶數の增加によりて總收入には格別の異動なきを得んも一方給水費の增加を免がれざるを以て結局の損益勘定に於て三万餘圓を減ずるは猶上低減步合の著しきに見ても察知し得べきなり即ち會社時代に在ては一ケ年五萬圓の純益を擧げ得たるが如きも官營後の計算にては辛ふじて二萬餘圓の利益あるのみ現に二百八十萬圓の巨資を投じて斯かる少額の利益に甘むずる誰か見て以て營利に汲々たりと言ふものぞ又世間往々朝鮮人の生活程度に鑑み尚は大に料金の低減を計るべしと論ずるものあり然れども斯くの如きは水道の異相を解せざるの妄論と言はざるべからず單に數字の上よりも之を觀れば總督府經營の水道料は幾分內地の夫れに比し高價なるべし然れども內地に在ては料金以外に於ける施設費は稅金として一般的に付課されつゝあるに非ずや故に彼是を合算すれば毫も輕重あるべき筈なきなり

▲將來の改良方針　前會社の給水設計は十六万人を標準として經營せり然るに現在は僅かに五萬人を給水し居るに過ぎず又給水總戶數約二千戶中朝鮮人は漸く一割內外に在り故に今後尙は大に供給の餘地あるを以て一方其普及に努むると共に他方に在ては水質の改良を行ふべく四十五年度豫算に其が改設費を要求せんと欲す而して尙未だ水道の利益に浴せざる十數萬の朝鮮人あるが如きは衞生上看過し難き痛恨事なりと謂はざるべからず見よ彼等は孰れも井水によりて其用を辨ずるものなるが最近の調査によれば京城の井數千四百十五箇中飮料に適するものは僅かに二百五十八箇にして他の千二百二十七箇は悉く不良井水のみなり豈に寒慄せざるを得んや云々

●船舶令起案の經過　朝鮮の船舶法は制令を以て規定する筈なれば之れを船舶令と唱へ度支部關稅課にて專ら其草案を起草し本年六月より施行の豫定なりしも附屬法令又は母國法律との關係甚だ廣きを以て容易に決定するに至らざりしが此程に至り漸く脫稿し目下總督府參事官の手に於て審査中なりと云ふ

◎總督江華島視察　寺內總督は七日午前八時の南大門驛發列車にて外波少將兒玉秘書官中山武官[illegible]川憲兵隊長藤田副官藤波通譯官の諸氏を隨へ仁川及江華島を視察の上午後六時過ぎ歸邸したり

●郵便局新工事　本年度通信局に於ては十數萬圓の資金を投じ新築若くは增築を行ふべき郵便局は此の程決定し近く工事に着する筈なるが今其の局名を記せば左の如し

一、釜山郵便局　局舍の增築
一、平壤郵便局　局舍の新築
一、鎭南浦郵便局　同　上
一、元山郵便局　局舍の增築
一、咸興郵便局　同　上
一、開城郵便局　局舍の新築

●判事懲戒委員　朝鮮總督府判事六日附を以て左の如く命ぜられたり

朝鮮總督府判事　城數馬
同　岩野新平
同　平山銓太郎
同　三宅長策
朝鮮總督府判事懲戒委員を命ず
朝鮮總督府判事　淺見倫太郎
同　牧山榮樹
同　楠常藏
同　橋本寬
朝鮮總督府判事懲戒豫備委員を命ず

◎赤十字愛婦總會　赤十字社、愛國婦人會兩新義州委員部にては來十一日同平壤支部にては來る十八日何れも聯合總會を開催する由にて目下社員會員の增募年醵金の整理總會の準備中なり尙義州支部にては社員會員の爲同夜本部員携帶の活動寫眞會を催す由なり

●京城民會開會期　京城民團京城民會は來十二日頃開會の筈なりと

●民團稅制調查委員　京城民團稅制調查會委員和田常市、海津三雄の兩氏は過般辭退せしに付き古城民長は其後任として原勝一、高橋章之助の兩氏に右委員を囑托したるに兩氏は快く受諾せり

◎商議臨時總會　京城日本人商業會議所にては八日午後七時半より同所樓上に於て臨時總會を開き撰擧權停止に關する件及第十次聯合會日鮮大聯合會全國書記長會議の報告等ある筈也

●朝鮮人の就學者

●驚くべき既婚者數●

京城府管內に於ける公立普通學校は總べて九校にして現在の就學者は如左

校名	男	女	計
校洞	二九六	…	二九六
水下洞	二一九	…	二一九
於義洞	二七三	一二六	三九九
貞洞	二五三	…	二五三
渼洞	一七七	七三	二五〇
仁峴	二四三	五五	二九八
梅洞	二四九	…	二四九
齋洞	一七一	…	一七一
麻浦	四八	…	四八
計	一、九二九	二五四	二、一八三

而して京城府管內の總人口は幾千かと言ふに二十三萬二千九百十四人なるを以て千人に對し九十三人は就學して居る割合なり之を吾が在住內地人の十人に一人の就學兒童あるに比すれば前途尙は遼遠なりと謂ふべし尤も其以外に於ける就學者勘からざるべきも私立學校に屬するを以て今茲に其正數を知るに由なし以上の內未婚者既婚者の數を計算するに未婚者は千九百四十六人にして既婚者は百八十九人を算せり則ち生徒總數に對し約八分六厘の既婚者ある譯なり一寸注意すべき現象なりと謂ふべし

▲人さまざま▼（四十七）

鶴田善重君

君は熊本縣の人だ、先づ手短かに其經歷を語れば斯ふである、京都大學を出て直ちに福岡醫科大學附屬醫院の助手となり、散々揉まれて居る內、京城民團に聘され漢城病院の副院長となつた、幾間もなく辭職して今度は大韓醫院醫官兼教授に任ぜられたが、偶々同院の改革に際し民間に下つて開業醫となつたのである、君の專攻は外科である、嘗て李完用遭難の時ひの一番に驅け付け應急處置を施こした手際なぞは實に輕妙なものであつた。彼の菊池博士が大勳八卦章を貰つたのも事實を言へば君の手腕に依るのである夫れに獨り同博士のみ靈腕の名を擅まゝにして居る鬼角世の中は御都合主義に仕組まれて居るでは無いか、而うして餘暇があれば原書を繙き勉强を續け追つて洋行する積りだと言つて居る。

●韓海漁業出願　安藤謙介氏等の設立に係かる韓海漁業株式會社は漸く成立し其本社を東京に置き支店を朝鮮に設くる筈にて昨日一件書類を添へ農商工部に出願の手續を爲せり

●秋山參事官入京　上京中なりし秋山參事官は和田試補と共に七日午後八時十分着入京

●祝賀會と軍司令部　龍山軍司令部に於ては今回仁川築港祝賀會開催を發せられ多數の天幕幔幕等を特に好意を以て貸與せられたりと云ふ

釜山より（六日發）

◎今日は釜山烟草會社を金七万圓に買收するが爲め金七千圓を携へて東京なる仲介者山本直次郎の來る日也連絡船來りしも其人なし先月五百圓の約束手附金を流す積りか然らざるべし何とか消息の齎らせるものある可く候

◎花大人として高名なる花田豫備陸軍中佐本日教育會の希望を容れて民團樓上に精神講話を試む聽衆の申込み多大に候

◎我稅關客月中の收入金總額七萬五千四百廿一圓を計上し候

◎既報東拓主催の觀光團は六日歸着の筈なりしが七日朝に變更致し候

公人私人

▲大內暢三（代議士）　六日入京京城ホテル
▲和田維四郎（工學博士）　六日入京天眞樓投宿
▲富永正義（參政課技師）　六日入京原金旅館へ
▲木下立安（鐵道時報社主幹）　六日入京浦尾旅館へ
▲飯岡政重（鑛山技師）　六日巴城館
▲清水釘吉（工學士）　六日入京同

▲仁川港ノ出入船舶▼

▲山東丸　八日大連より入港
▲大有丸　同　大阪より入港
▲隅田川丸　同　大阪へ向出港
▲音羽丸　同　鎭南浦へ向出港

●相場電報（明治町四村支店着）

銘柄	（六日後場）寄付	引	（七日前場）寄付	引
▲神戶電鐵	出來不申		[illegible]	[illegible]
▲京坂電鐵	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲鐘淵紡績	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲大坂鐵	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲東京株	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲新式	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲大坂直	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
▲同取引	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

●仁川米豆取引所

●七日前場六月出來不申▲七月寄十一圓二十錢▲最高十一圓三十錢▲最低十一圓二十錢▲止十一圓二十一錢▲八月寄十一圓六十五錢▲最高十一圓七十一錢最低十一圓六十三錢▲止十一圓六十七錢

●大坂期米電報

●六日後場止六月當不明▲七月寄十七圓二十二錢▲八月十七圓二十八錢●七日前場六月寄十七圓十九錢▲止十七圓四錢▲七月寄十七圓十九錢▲止十七圓十一錢▲八月寄十七圓二十六錢▲止十七圓十錢

內地巡禮日記（十）

水浪生

五月十一日の續き、午前は舊友及び同業者諸氏の訪問を受け、午後は出でゝ英米獨佛の各大使館を訪問し、刻下の問題たる朝鮮即決例に就いての所見を質す、是に於てか我外務當局の苦心判明に及び余をして只管らに問題の圓滿に解決せんことを望んで止まざらしむ

十二日、元の警務局長松井茂君を大井に訪ふ、主人在邸、引かれて書齋に通る、書齋は二階にして眺望雄大、遠く鶴房を、近く品海を其一眸の下に萃む。座巳に一記者あり、主人に請ふて火災消防の組織及び方法の改良意見を徵さんことを以てす、主人其蘊蓄を披くこと一時間、記者の筆記は立所にして消防界に權威ある一大雄編を作る。記者辭したる後ち主人と余とは數刻懽談を試む、余偶ま主人を性相的に判斷せしに近時再び世に現はれんとするものゝ如し、余主人に語るに右の事を以てす。主人笑つて答へず、而かも多少は諒とする所あるものゝ如し、其後ち二旬を出でず君擧げられて靜岡縣知事に任じ元の內部次官にして今の鳥取縣知事なる岡喜七郎君を飛越す、余の性相判斷も決して信ずるに價値なきに非ず。別るゝに望み松井君曰く余は在鮮の諸友が其東上の折に交る交る余の浪居を訪ひ玉ふを多とす、殊に同僚以外の人には宇都宮君の先立て來れるあり。今亦た兄の來訪を受く、鮮土の事余が夢にだも忘るゝところに非ず云々。

諸所徘徊の後ち旅舍に歸りしは夕景、某君の招宴に預り花月樓に行く、樓の女將其万年新造的容貌と手腕とを發揮し歡待到らざるなし之れ當夜の主人の爲に盡したる所以か。隣室に大宴會あり餘興として琵琶歌那須の與市起りしが與市が那須野權現を念じ、軍扇を射飛ばす條に到つて喝采沸くが如く余亦た圈外にあるを忘れて喝采を禁ずる能はざりき。

十二時旅舍に歸る、京城よりの書信數通机上にあり、其一通を披き見れば夫れは極めて抱腹に値せる者あり

▲茶袋▼

總督政治に嬉し涙を溢ばしたといふ馬越君實は千古の感激が談笑の間に解決されたのに對し、聊か贊辭を述べた處が、彼いふ工合に傳られたのだ。是から朝鮮を旅行するには眉に唾しなければ險呑々々▲然らば取消を出したら宜う御座らうと言ふとマサカ責めなかつたとも言へまいじゃないか▲東拓の漁業權拋棄は今も尙は社會の物笑となつて居る、而して其權利を得、而うして之に投じた金は三万餘圓である、丁度補給金の一割を棄てゝ一時慰むで見たといふ譯だ▲處が同社の者に言はせると拋棄じゃない權利を讓渡したまでである、拋棄といはるゝのが夫なに苦しいか▲水道を他人に使用せしむる事は相成らぬと言ふのに平氣で行つて居るものが少くない、ソコで愈々近々檢擧に着手するさうだ。

△一日一訓▽

行路難不在水不在山　只在人情反覆間（白居易）

多情多恨

京城藝妓の半生（廿九） 清水席やん茶（一）

藝名をやん茶と申しますから嘸太した莫連女の樣に思ふ方もムんしようが事實は大違ひで溫順なもので御座います唇を反して豪い勢で喋る所を見ると自分で云ふ程溫順でもあるまい京城券番若手中の精力家の一人である。スコ出額ではあるが愛嬌タップリの美人れ加に歳が只の十九と云ふ水の出バナと云ふのだから一層可愛い妓である、ピサモ〳〵能く知つてる如に書く記者よりもやん茶つて一斤幾何位するもんだい、なんかんと空惚けらるゝ仁の方がれ委しいのだから御披露は切り上げて本文に入る。未だ漸うやつと卵の殼から出た斗りの雛兒ですもの履歴なんて大層なものはありませんけれど美の如なものでも姐さん並に思召して書いて遣らうと仰云る御親切を無にしても濟みませんから何うか生意氣どれ叱りのない樣にれ願ひしますと云ふ彼れの生れは大阪は南區惣衛門町であるが六歳の折仔細あつて廣島の小網町に轉籍したのだ、親の稼業がれ茶屋即ち料理屋であつたものから極く幼さい時から舞や三味線を仕込まれて九歳の年に同地の島津券から一本の舞扇を翳して靜子と名乘つて出たのである、夜が更けては座敷で稚ない女のツイ居睡つて姐さん達や客方に笑はれるやら叱られるやらの辛い苦しい恥しい思いを積んだ戀修業、やうやう馴れし十四の春當地掬翠樓に抱へられて文之助（現の菊家の文之助）の妹分としてやん茶と披露されたのである、彼れの語る處に依る、文之助姐さんは御承知の通りの嚴格家ですから片時も靜とは致せて置かない夫れ三味線夫れ讀み書きと夫れ裁縫と尻から押つ立る如にヤイ〳〵云はれました當時の辛さつたら有りませんでしたよ、藝妓は藝だけで澤山、讀み書きや裁縫なんて不必要なものを無理に稽古を爲せる隨分七八ケ間敷い姐さんと陰へ回つては惡口しました事も度々ですが現から思ふと冷汗が出ます何うにか斯うにか假名混りに手紙の一本も書ける如に成つたのは全く文之助姐さんのれ蔭です貴郎が御存じの彼の方どの關係も姐さんが御察を出てから後に公然に行る如になりましたの、と云ふ。御存じの彼の方とは誰れ巴城館の若主人民さんの事である、過日も本紙欄に紹介した、やん茶が逆戻りの藝當を演じたのも民さんが關係して居るのだ、彼れは本年三月迄滿五年間契約通り勤め揚げた本來ならば借金などあらう譯がない然るに彼れは年期は明けたが少なからぬ借金を支拂ふた、賭事でも爲たか俳優でも注ぎ込んだか、彼れは此の疑問に對して下の如く答ねた（つゞく）

●水田を種に詐欺 兵庫縣人當時忠淸南道懷德郡大田本町三丁目水田喜一郎（三三）和歌山縣人當時同町佐藤々佐（四三）鹿兒島縣當時忠淸南道燕岐郡北一面居住大川十右衞門（四二）の三名に對する詐欺取財事件は第一審に於て有罪となり水田喜一郎一名だけ服罪せしも佐藤、大川の二名は不服として控訴中なりしが七日京城控訴院刑事部法廷に於て楠裁判長山口河村の兩陪席判事の係りにて深澤檢事立會の上公判開廷せられたり被告辯護人として木尾、大久保、岡田の三辯護士出廷し被告佐藤、大川の二名は何れも保釋中とて身柄の拘束なく絽の紋付羽織を着流し風采堂々からず一見紳士然として法廷に立つ事件の內容は佐藤大川は數年前より相提攜して營利の目的にて京釜線鳥致院驛に市街地を設くるの目的にて地所を購入し埋立地さ[illegible]負債償還の爲め種々營利事業を爲し離る可らざる關係ありて永田は佐藤に使役され居る關係よりして大川佐藤の共同事業なる公州小井里間道路修繕請負工事費金に窮し三人共謀して大川佐藤の共有地なる畓八斗落を擔に池田福次郎なる官吏より金一千圓を詐取したりとの事にして事實の審問終り證據調に移り辯護人は綿密に調查蒐集したる證據書類を提出し書類の取寄せ證人喚問等を申請し其の理由に就き詳細に述べしに對し檢事は意見を述べ裁判長は合議の上或る一部を却下し多數の部分は採用し次回公判期日は追而通知す可しとて閉廷したり

●迷信から他人を殺す 慶尙南道金海郡右部面の李任鳳の妻金小順（三二）は去る十九日硝酸を以て同面李鳳後の長男某（三）を毒殺したり其原因は是より先き加害者の長男某が病死したるとき巫女をして占はしめたるに被害者の祖父が佛壇にある加害者の亡父の神體を持ち去りたる祟なりと云ひしより復讐したるものなり

女振り（三十二）
新町大桝屋女將 北野みす女

大桝屋の主人は北野竹次郎と云ふ夫婦ともに長崎縣の人だ、女將ナカ〳〵の嚴格家で同家の繁昌も此の人あるが爲めである、吝だ薄情だと云ふものがある、證據はと問へば現に抱へ娼妓の君香が年明けて歸國する際僅かの金錢に困つたのに知らん顏をして一厘も餞別を遣つてちやなかつた、と憤慨する併し現在居る妓は能く氣の注く好い女將さんやワと申して居る之を要するにれみすさんは卵を產まぬ鷄に餌を飼ふの愚を學ばぬのであらう、怜悧な證據だ、竹さんは永らく病氣して居るので一切万事れみすさんが切つて回して居るがグッとも云ふ者がない處を見ても其の怜悧さが窺はれるであらう、裁縫及び生花は大の特意で抱妓の衣類など一切一人で引き受けてるモ少し思ひ遣りなるものを持つと申し分はないと申すものがある、夫れは榮耀の餅の皮かナ

●署長畠山重忠 南部 △藝妓志願者の糺彈 近頃當地の花柳界に於て畠山重忠さんの調べが濟みましたとの言葉が流行して居る何うした譯かと物好の探つて見たに何事にも用意周到なる南部署今村警視が藝妓の鑑札下附を願出るものがあると先づ斯う頭の頂から足の爪先まで熟つと見る少々迂散臭いと見たが最後高等室の壁に附金の袋に入れし掛けてある三味線を引つ外して一寸此方へと先に立つて行く所が擊劍道場黒渕の行衞ならぬ「れ前の得意の藝をし恥かしがらずにサアチャツと演つて見せて玉も」と小氣味の惡いホントウの猫撫聲なるもので「れ前の地は何にかね」と椅子に腰、此の時此の際萬一其の志願者なるものが「チはイポチにハシリチ」なぞと言らうものなら夫れこそ鑑札の下附所か大目玉を剖いて叱り飛ばすが夫れと反對に「ハイと返辭もしとやか」に三味取り揚げてギーイツブツンギイツブツンブツンツンテツツツンと來ると「オー好い奴」と來即ちメ子の兒大手を振つて一人前の藝妓として「ヘエ今晩は……妾しや重忠樣のれ調べ濟み官許の藝妓よ」つてね次第に相つて見ると成アる程

●雨班の官印僞造 北部小安洞に住む正三品李載覲は李王家の血統續きの由にて賤しからざる身分の者なるか昨年秋の頃從源植なる者と共謀して某所の地券、忠淸南道海美郡の官印及同郡守の職印を僞造し某々等を籠絡して保證人となし京城廣業組合より金六千圓を借入れたること京城第二分隊の探知する所となりて逮捕せられ六日京城地方裁判所へ送られたり

●取消 拜啓貴紙第六百九十七號第三面記事中駐屯軍を詐欺すと題し拙者に關する記事御揭載相成候處右は事實大に相違有之詐欺的の行爲斷じて無之甚だ迷惑致候に付全文揭げ直に御取消相成度候也
明治四十四年六月六日 京城本町一丁目 渡邊福太郎印
京城新報社編輯局御中

●盜人猛々しい 永樂町一丁目八十一番戶中園はま（五四）は熊本縣人當時明治町二丁目中原光太郎（四三）及び同縣人川邊大五郎を相手取り暴行犯として告訴せしに取調の結果ははま無斷光太郎の娘を忠淸南道論山に連れ行きし爲め光太郎は大五郎と語らひ酒氣を藉り不法を責めに行きたるに彼れは其の不法を謝せず暴言を吐きしさて警察迄同行せんとせしに應ぜざるより拳を揮つて面部を毆打したりとの事に反てれ目玉頂戴したりと

●松の倒木を匿す 民團議員三好和三郎氏雇人岩下彌平は漢陽公園に於て本年四月の暴風にて倒れたる松の木數本を窃に三好氏方に持ち歸り居たるを其筋の探知され檢事局に送られ目下取調中

●キリ〳〵歩め 山口縣人當時壽町一丁目樋口甚平（三三）大阪府當時旭町一丁目小櫻吉松（三七）京都府人當時壽町一丁目森元太郎大阪府人當時壽町一丁目藤江ヤヱ（二三）山口縣人當時壽町一丁目高崎安太郎（三〇）大坂府人當時明治町二丁目岩田榮次郎（三二）香川縣人當時明治町二丁目山口喜吉（三八）の八名は外三名の者と共に六日午前十時より荒木勝之助方に於て賭博中を南部署に檢擧され取調中

●起丁祝賀ご宅支店 宅合名會社仁川支店にては築港祝賀會の當日は本町通り四丁目に休憩所を設け一般の通行者に酒の饗應をなして人氣を添ゆる由噂當日は卜戶黨の咽喉を鳴して恐悅することとならん

●無罪と有罪 既報家村郁之助振角稻太郎に係る恐喝取賊事件は家村は缺席の儘懲役一年に處せられ振角は無罪となる

廓のすゞめ

▲今日は滿洲大連のれ噂を一つ話しの材料まで此れ噂を申上げる▲大連には隨分藝妓酌婦を抱へて居る料理店も少なくはないが年額千圓以上の税納者は九名だけである▲併し此の九名の總税額は一萬一千二百九十八圓五十錢に達し一般鑑札業者税額の四分の一に相當する▲又雜種税總額から見ても實に其の九分の一に相當する▲其多額納税者と納税額を擧れば左の如しで御座ゐ

千五百十三圓	金城檢番	伊藤謙吉
千四百四十二圓	千勝館	多田仙之助
千四百三十四圓	高砂檢番	大津久次郎
千三百九十三圓	扇芳亭	岩間芳松
千二百二十三圓	江戶屋	田島トラ
千百五十八圓	勇樓	西田好藏
千百四十五圓	梅花	篠田ヨネ
千四十七圓五十錢	松の家	宮崎重太郎
千四十三圓	明治樓	白川五平

▲井門の權助は本月を以て年明きとなるから東京へ歸らうか當地に居らうかとアノ顎が襟に入る程俯向て考へた末「どうせ當地で自前で稼ぐことに思案一決に及んだ相だ▲花月のれ筆は御存じの通り御存じの通りの名物なるがモ一つ御存じの通りろと云ふ香が出ないのを口惜しがつて妾しやろうして斯うざれつが回らないんでしよう▲偕華亭のれ多福は過日の事あつて以來京城新報の方が見へたら一つ酷い目……ちやない酷いへに逢はして遣ると「ヘグスチ引いて待ち構へて居るとは恐ろしや〳〵（風聞子）

●仁川券番の新妓 仁川の市況も漸落の御蔭で稍々色めき來りしより各一等料理店にては競爭的に美妓新輸入を始め七日よりヘイ今晩はと顯はれたるは淺岡の藝名千代子本名は檜山はま（廿四）生れは廣島縣同藝名勇本名大林とく（二五）生れは福岡縣鶴樓よりは藝名金時本名鈴木さき（二三）生れは東京の三美人

●歌舞伎座 開場匆々益々好人氣の新派翠香園龜田俊之助一行八日の替り外題は「七化けれ新」改題「血染の雪」全八幕にして恭無し大活躍に演ずる由良一母れもま、小使井原金吉（神邊）加藤步兵曹長、淸守重作（武田壯士）遠藤五郎、職人寅吉（竹内）高田憲兵上等兵（月岡）惡漢幸吉、憲兵屯所附村上正義（山田）職人芳藏（松浦）仲居れ松（小松）娼妓れ花、醉漢岡田惣太郎（木村）賊紳士甘門千太（喜多）女賊北海お龍（藥田）封間八助（淸水）若者喜助、郵便配夫（江川）塚本憲兵上等兵（森本）野村憲兵上等兵（鈴木）發明家後に、憲兵上等兵正木良一（龜田）

平民文庫

▲娘持つ親と仰云る方に申します其の滑稽だと云ふのを投書して下さい（係）▲京城の如き沒趣味の處に而も振つた洒洒なる遊戲場交友軒なる大弓場と玉突場が吉野町に出來たのを實見した序に、幸に御同好の先輩方よ晩餐後の散步がてら御出馬御高敎を垂れらるれば幸甚（大弓初步生）▲鈴木北部署長は一寸見ると甚だ恐ろしい如に思はれるが實際親切な西部の佐土原分署長は態度から言葉迄誠に叮嚀な方だ（出頭生）▲菜葉が段々美味くなつて來ましたね（百姓）▲珍らしいかい夫れが（小僧）▲明治町三丁目の某藥屋では二人迄子供のある妻君を離緣した此の妻君は家の都合が惡い時は下女同樣に働いたものだが小姑たる主人の妹に逐り出されたのだ相だが氣の毒です（知人）▲日本人小料理屋が滅つたので朝鮮蝸甫家が大發展を計畫して居ると云ひます（聞太）▲本年の氣候は何うも不順ですから互ひに氣を注ける事にしたいものだ（謹一）▲私は西洋草花を五六種栽培しました毎朝夙く起きて其の靑々とした勢の旺んなるのを賞し夕方は夫れに水を注れて明日の朝を樂みにして寢みます其の心持が何んとも云へません（都の兒）▲れ樂みでしよう（小僧）